

Ⅱ 京大数理解析研究所Ⅱ 日本数学会と共催で第1回「高木レクチャー」

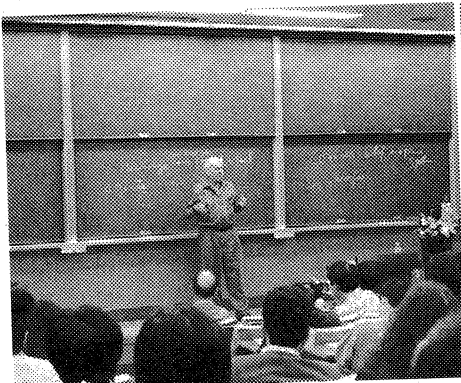
11月25日・26日の2日間にわたり、日本数学会と京都大学数理解析研究所の共催で第1回「高木レクチャー」が錦秋の京都にて開催された。

「高木レクチャー」は、数学者の名前を冠した定期的な講演会として日本で最初のもの

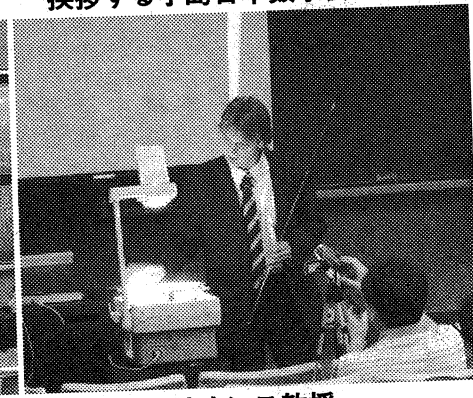
で、本年3月に日本数学会が創設した。毎年、世界から卓越した数学者を日本に招き、気概に満ちた研究総説講演を若手研究者・大学院生を含む専門分野を超えた数学者が聴くことにより、創造のインスピレーションを引き起こし、新たな数学の発展に寄与することを目的としている。



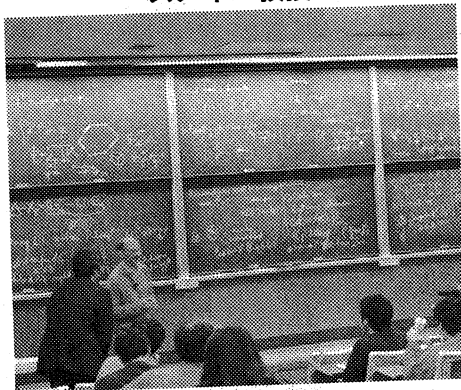
挨拶する小島日本数学会理事長



スマイル教授



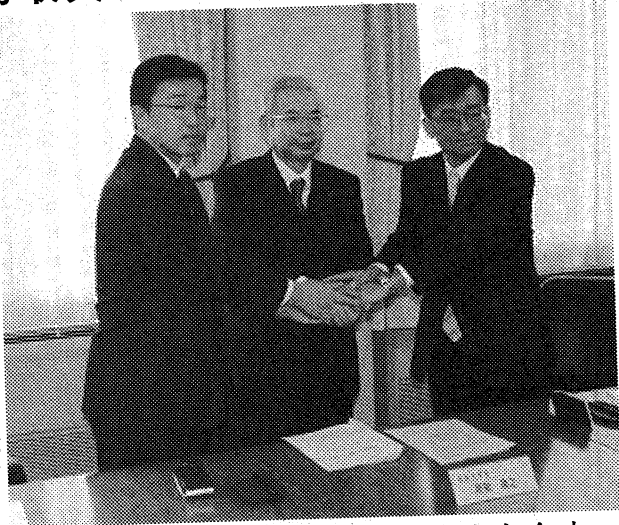
リオンス教授



ブロック教授

その初回である今回は、スマイル教授(豊田工大シカゴ校・シカゴ大学、1966年フィールズ賞受賞)、リオンス教授(コレーージュ・ド・フランス、1994年フィールズ賞受賞)、ヴォワザン教授(CNRS)、ブロック教授(シカゴ大学)の4名の著名な研究者の2日間にわたる連続講演が行われ、全国から参加した約140名の研究者が熱心に聴講した。当日は、講演予稿が無料配布された。各講演をもとにした研究総説論文は、日本数学会の欧文学術誌「JJM(日本数学会誌)」に厳正な査読を経て掲載される予定である。第2回は来年5月末、東京大学での開催が予定されている。

◆ 商工組合中央金庫鳥取支店・米子支店 ◆ ＝ 鳥取大が連携協力協定を締結 ＝



握手を交わす、左から佐藤鳥取支店長、能勢学長、継国米子支店長

鳥取大学は11月24日、県内の商工組合中央金庫の鳥取支店及び米子支店との間で、金融機関の情報や金融ノウハウと大学の研究成果などを組み合わせ、地域の企業及び地域社会の発展に貢献することを目的に連携協力に関する協定を締結した。

商工組合中央金庫は、全国に92の支店があり、研究による新商品の開発、製品化への融資と併せ、国内のネットワークを通じてのビジネスマッチング、販路拡大等の情報を提供することができ、連携協力によるイノベーション推進は一層高まると期待される。

協定書調印式には、商工組合中央金庫の佐藤鳥取支店長及び継国米子支店長と能勢学長が出席した。

調印後、能勢学長は、「本学の研究成果が、全国にネットされ商品開発・販売につながり、実際に協定が実を結んでいくことを望んでいる」と協定への期待を込めた。

生えらーカカレに匠の交片」と題し、それぞれ講演があった。

大学本部にて

り上がりのみせた。